

株主通信 第16期 報告書

平成26年10月1日から平成27年9月30日まで

東亜バルブエンジニアリング株式会社

株主の皆様へ

代表取締役

真鍋吉久



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
今回新たに代表取締役に就任いたしました、真鍋吉久でございます。微力ではございますが、全力をもって社業の発展に尽くす覚悟でございますので、前任者同様のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

さて、第16期の株主通信をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

既にご報告のとおり当期は、売上高91億83百万円、営業利益7億26百万円、当期純利益6億94百万円を計上することができました。これは、再稼働準備関連工事などにより原発関連売上が久しぶりに30億円を超える水準であったことが主な理由ですが、いわゆる3.11による原発事故以前には60億円前後の売上であったことからすれば、まだまだ元の原発市場への回復には程遠い状況にあります。

しかし本年8月には、九州電力川内原発1号機が、続いて10月には同2号機が再稼働し、「安全が確認された原発は再稼働させる」とした国の政策は今後、着実に実行されていくものと考えており、更なる原発市場の回復を期待しているところです。

一方コスト面では、原発事故以降、今日の状況を想定し固定経費削減施策を多方面から進めてまいりました結果、4期前の第12期に比して実に8億円以上のコストが削減でき、いわゆる「団塊の世代」の大量退職といった事情を含むものの、相当に収益性は改善しました。

また、第3四半期まで記載しておりました「継続企業の前提に関する重要事象等」につきましても、当期末には削除することができ、状況は一步一步着実に改善に向かっているものと考えております。

今後更に収益性を高めることで、株主の皆様のご期待に添えるよう、人心を一新して新役員・従業員一同力を合せ全力で努めてまいりますので、皆様におかれましては何卒、引き続き変わらぬご指導をいただきたく心よりお願い申し上げます。

平成27年12月

財務ハイライト(連結)

売上高

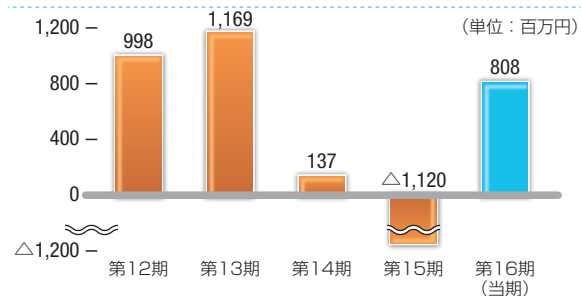
91億83百万円

〈前期比 29%増〉



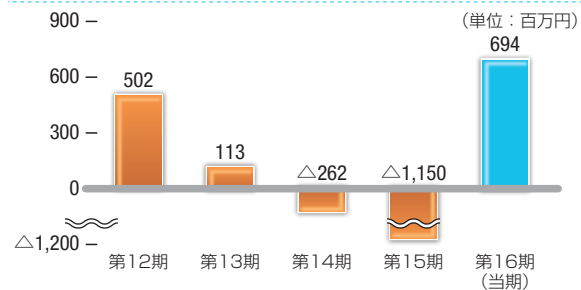
経常利益

8億8百万円



当期純利益

6億94百万円



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

配当について

第16期の配当につきましては、1株当たり年間40円(期末40円)とさせていただきます。

1株当たり
40円

詳細な財務情報は、当社ホームページをご覧ください▶▶▶

<http://www.toavalve.co.jp/>

株主総会決議で通知に関するお知らせ

第16回定時株主総会の決議結果につきましては、当社ホームページ(<http://www.toavalve.co.jp/>)での開示をもちまして決議で通知に代えさせていただきますので、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

株主メモ

事業年度 10月1日から翌年9月30日まで

期末配当金 9月30日

受領株主確定日

中間配当金 3月31日

受領株主確定日

定時株主総会 毎年12月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777 (通話料無料)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせ下さい。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行株式会社)ではお取り扱いできませんのでご注意下さい。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行株式会社)にお問い合わせ下さい。なお、三菱UFJ信託銀行株式会社全国本支店におきましてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社全国本支店でお支払いいたします。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第二部

公告の方法 電子公告により行います。

公告掲載URL <http://www.toavalve.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に公告いたします。)



東亜バルブエンジニアリング株式会社

新社長からのメッセージ

原点に立ち戻り、総力を結集して 勝ち残る企業体質へ

困難に立ち向かって

当社は、これまで原発市場で永年培った技術と経験で企業価値を高め、お客様より信頼を得てまいりました。また、その信頼を基に火力プラント製品の付加価値を高め、火力プラントについても高い品質が求められる高温高压弁や安全弁等を納入しています。

当社が得意とする原発市場は、九州電力川内原発が無事に再稼働を果たしたことにより、順次回復に向かうと強く期待していますが、残念ながら原発市場が3.11原発事故以前の水準までに戻ることは、無いと考えざるを得ません。

当社は、今後、縮小した市場で、不足分を補い勝ち残る企業体質への改革が必須との考えに加えて、如何にして勝ち残るだけでなく、更に発展的な成長を成し遂げていくには、戦略的改革が必要不可欠と考えています。

《経営理念》

信頼される企業として社会の進歩に貢献し、
誠実と融和により健康で活気ある職場を作り、
常に経営の刷新と技術の開発に努める。



ものづくりの会社としての使命

この戦略的改革に取り組むためには、全社大での強い結束が必須であり、永年当社に籍を置いてきた私の重責と考えています。当社は創業以来、電力事業に深く関わり、社会に貢献することを基盤としてきました。今後もこの創業時の原点に立ち戻ることで、生き残り成長が成し遂げられ、ものづくりの会社としての責任が果たせることに繋がると考えております。

この責任を果たすためには、市場環境、競争環境をしっかりと把握え、自社の強み、弱み、経営資源を把握し、さまざまなステークホルダーとの信頼関係を保ちながら、法令遵守の下、組織運営を行うことができる企業体質への改革を進めます。

「攻めとスピード」で挑戦

当社の主要マーケットである電力業界は、今後、電力自由化による発電単価の引き下げが厳しく求められ、本格的な競争の時代に突入します。その結果、当社もその影響を強く受けることが予測され、それに対応した高温高压弁や安全弁等の事業戦略を迅速且つ効果的に進める考えです。

このためには、「攻めとスピード」をキーワードに諸課題への積極的な取り組みと全役職員の知恵を結集し、自ら環の真ん中に立ち、真正面から取り組むことに加えて、従業員との対話も重視しながら、柔軟且つ大胆な業務運営に努めたいと存じます。

新体制として、大きな節目を迎えることを機に、人心を一新し、社業の一層の飛躍にまい進するものであります。

NEWS ニュース

手動弁開度装置の開発

発電所のプラントには大小様々なバルブが取付けられ、流体を制御しています。プラントに使用されているバルブは数千台にもなり、その中でも小さな手動弁は外観からでは、バルブが開いているか、閉じているか分かりにくいものでした。

そこで当社は、手動弁のハンドル上部に簡単に取付けられ、ライトを当てることで、そのバルブの開閉状態を装置内部のセンサーで判別し発光色により知らせる装置、Smart iVALVE（スマートアイバルブ：登録商標）を開発いたしました。

発光色は“閉”は緑色、“開”は赤色です。また、無線機能を搭載しており、バルブの状態を外部の携帯端末（パソコン、タブレットなど）に送信し、携帯端末でバルブの状態を管理できる機能を持っています。この装置はバルブの開閉表示だけでなく、今後更に発展していくIoT（Internet of Things：モノのインターネット）の外部装置としても期待できるものです。

当社では、今後も発電所の安全性・信頼性の向上のため様々な取り組みを実施してまいります。



ハンドルに取付け



ライトを照射し起動



会社の概況（平成27年9月30日現在）

| | |
|-------|---|
| 商号 | 東亜バルブエンジニアリング株式会社 |
| 英文 | Toa Valve Engineering Inc. |
| 証券コード | 6466 |
| 所在地 | 〒660-0054 兵庫県尼崎市西立花町五丁目12番1号 |
| 設立日 | 平成12年3月16日 |
| 資本金 | 17億3,955万9,810円 |
| 事業内容 | 各種バルブ、鋳鋼製品の製造販売、 各種バルブのメンテナンス業務、除染及び廃炉関係 |
| 従業員 | 322名（連結352名） |

■役員（平成27年12月22日現在）

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 代表取締役 | 真鍋 吉久 | 取締役 | 高橋 正憲 |
| 取締役 | 笹野 幸明 | 取締役 | 浜本 光浩 |
| 取締役 | 氏野 正 | 常勤監査役 | 厨子 茂治 |
| 取締役 | 飯田 明彦 | 監査役 | 萬成 隆 |
| 取締役 | 角谷 正昭 | 監査役 | 生川友佳子 |

※取締役 高橋正憲、浜本光浩の両氏は、社外取締役であります。
※監査役 萬成 隆、生川友佳子の両氏は、社外監査役であります。

株式の状況（平成27年9月30日現在）

発行可能株式総数10,040,000株
発行済株式の総数2,678,600株
株主数2,053名

■大株主（上位10名）

| 株主名 | 持株数（株） | 持株比率（%） |
|---------------------------|---------|---------|
| 三菱商事株式会社 | 302,200 | 12.95 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口） | 181,800 | 7.79 |
| 西華産業株式会社 | 113,600 | 4.87 |
| TOA取引先持株会 | 91,400 | 3.92 |
| 三菱重工業株式会社 | 89,624 | 3.84 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 68,000 | 2.91 |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 66,500 | 2.85 |
| 前島崇志 | 56,000 | 2.40 |
| ゴールドマンサックスインターナショナル | 46,700 | 2.00 |
| 三川信一 | 41,600 | 1.78 |

※当社は、自己株式344,196株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。